

宮古高校における主体的な「気づき」と「学び」の教育活動

Educational activities of independent "realization" and "learning" in Miyako high school

宮古高校, ○儀間朝宜

Miyako High school, Gima Tomonari

E-mail: gimatmnr@open.ed.jp

沖縄県立宮古高校学校は、今年で創立 91 周年を迎える伝統校であり、文武両道の校風と、校訓「知性の啓培」「徳性の涵養」「体力の練磨」のもと教育活動が展開されている。

2 年生の理数科では課題研究の授業において、物理・化学・生物・地学・数学の 5 分野に分かれ、自ら課題を見つけ探究する活動をおこなっている。1 学期では、課題実験とレポート作成、テーマ設定おこなう。2 学期は実験と中間発表会（プレゼンテーション発表）をおこなう。そして 3 学期では、最終報告書作成と最終発表会（ポスター発表）をおこなう。昨年からは、放課後や休日にも実験をおこなう生徒も現れており、主体的に取り組む生徒が増えている印象である。一方で、課題研究の指導と評価が課題である。

本校科学部は、1 年生 5 名、2 年生 7 名の計 12 名で活動している。昨年は、クロマダラソテツシジミの研究チームが、沖縄県の代表として高文連文化祭の九州・全国大会で発表することができた。今年は、琉球大学の戸田教授の指導のもと、ミヤコカナヘビの研究をおこなっている。その他にも、生徒が企画・運営する「ぱにぱに科学教室」を実施しており、地域の子どもたちへの科学教育の普及に努めている。ぱにぱに科学教室は、生徒が主体的に取り組み、毎年改善している様子がみられる。一方で、研究活動においては、実験がうまくいかなかった時に粘り強く取り組む姿勢やその解決に向けた話し合い活動が十分でないことが課題である。

近年、学校教育においては「対話的で主体的な深い学び」が注目を集めており、高大接続改革においても「学びの主体性」の評価が問われている。本発表では、宮古高校における生徒が自ら「気づき」、「学ぶ」取り組みについて課題を踏まえつつ報告したい。



図 1.課題研究の様子



図 2.科学部によるぱにぱに科学教室の様子